



横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

スターチャイルド

《金沢文庫ナーサリー》

2019年12月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	8
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	13
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	14
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	15
評価領域Ⅵ 経営管理.....	16
利用者家族アンケート分析.....	17
利用者本人調査.....	21
事業者コメント.....	24

◆ 第三者評価実施概要 ◆

事業所名	スターチャイルド《金沢文庫ナーサリー》
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
報告書作成日	令和元年12月6日
評価に要した期間	5カ月間

*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：令和元年6月24日～8月16日】
 - ・職員会議の際に趣旨等の説明を受け常勤・非常勤全ての職員が勤務時間内に記入
 - ・個人が記入した自己評価票をもとに、(0歳・1歳児)(2歳児)(3歳・4歳・5歳児)(保育パート・事務)(栄養士・調理パート)に分かれ意見交換をしながら1項目ずつ確認した
 - ・それを持ち寄って、リーダー、サブリーダー、園長で協議・合意してまとめた
2. 利用者家族アンケート調査 【実施期間：令和元年7月10日～7月25日】

配付：全園児の保護者(64家族)に対して、園から手渡しした。

回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：令和元年10月16日、10月18日】
 - 第1日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：書類調査／事業者面接調査(施設長)
 - 第2日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：職員ヒアリング調査(リーダー保育士・保育士・栄養士)
事業者面接調査(施設長)
4. 利用者本人調査 【実施日：令和元年10月16日、10月18日】
 - ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子等を観察。
 - ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。

◆ 総評～評価結果についての講評 ◆

【施設の概要】

スターチャイルド《金沢文庫ナーサリー》は、京浜急行本線金沢文庫駅から徒歩3分の交通の便の良いところにあります。近隣には金沢自然動物園や市民の森、称名寺、海の公園を始め多くの公園があり、山や海と自然に恵まれた立地となっています。平成24年（2012年）4月にヒューマンスターチャイルド株式会社によって開設されました。

園舎は、ビルの4階にあります。施設はワンフロアになっていて、事務室を囲むように1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児保育室と並び、中央に独立した0歳児保育室、乳児用トイレ、幼児用トイレがあり、一目で園全体を見渡すことが出来る造りとなっています。幼児室の天井の傾斜部分はガラスで明るい日差しが差し込み、電動式調光ブラインドで採光を調節しています。調乳室、沐浴設備、多機能型トイレがあり、厨房は通路と反対側に位置した場所にあります。屋上園庭では、午睡後やわずかな時間を見つけて身体を動かしたり、夏期には子どもたちが水遊びを楽しんでいます。

定員は66名（生後57日目から就学前まで）です。延長保育を実施していて、開園時間は、平日7時～20時、土曜日は7時～18時です。

保育理念は、「子どもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践します。」と定めています。保育目標・方針は、①よく考え、心身ともにたくましい子（自立と挑戦を応援します）②個性の豊かな子（個性を尊重し長所を伸ばします）③やさしさと思いやりのある子（社会性＝人との関わる力を身につけます）としています。

1. 高く評価できる点

● 子どもたちは、自己肯定感をもって生き生きと園生活を送っています

施設長は、子どもが自信を持ち自己肯定感につながる「褒める保育」の実践を心がけています。褒める言葉は子どもの存在を認める言葉を使用するよう、ただ「凄い」ではなく「お着替えできたね」「全部食べられたね」など子どもを認める具体的な言葉で伝えるように保育士に伝え日々指導しています。昨年度の園内研修では1年を通して「子どもとの関わり方」を毎月実施しました。保育士が一人一人の子どもの様子を見て声をかけたり、沢山褒めたり、人前に出る機会を作るなど、関わりを通して子どもの行動の変化や成長の様子を見ながら担任と一緒に他の保育士も学び、どの保育士も同様の関わりをするよう努め、その結果を職員間で話し合っ自己研鑽しています。1年の研修を終えて振り返りをし、子どもがどう変わったか共有しています。このように保育士は子どもとの関わりの中で子どもたちが自信を持って行動出来るよう、学びを保育に活かし実践しています。

例えば、行事などでは子どもが自信を持って出来るよう取り組んでいます。5歳児の子どもたちは、運動会に向けて自分で頑張ること、目標を具体的な言葉にして表明し、文字にして掲示しています。目標に対して出来たことを褒めて保育士が花丸をしてくれると次の目標を決めます。2つ目、3つ目と花丸がつくと、頑張ったことへの保育士の言葉を添えた金色のメダルが授与され、子どもたちは自信につながっています。4、5歳児はリレーの順番を子どもたちが決め、さらに一人一人の良いところを皆で見

つける時間を設けています。例えば「バトンを渡すのが上手」「転んでもすぐ起きて走る」「走る時は一生懸命」など本人の良いところを指摘して子ども同士で認めています。子どもの目を通して友達が自分を認めてくれたことで自信を持つことが出来ます。保育士は子どもが出した意見を文字にして掲示し、一人一人が自己肯定感を持って、個々の力を発揮しつつみんなで頑張ることが出来るよう工夫しています。

また、異年齢での交わりとして「なかよしかい」を開催しています。「なかよしかい」では、年上の子どもが盆踊りを教えたり、お楽しみ会の劇を見せ合ったりして年下の子どもが安心して行事に参加出来るように配慮しています。また、年長児が廃材で作った望遠鏡を年下の子どもにプレゼントをして散歩に持って行くなど、大きな家族のような交わりが来ています。卒園近くになると5歳児は「一緒に遊んでくれた」「信号を教えてくれた」「給食をお代わりにすごい」など頑張ったことを年下の子どもたちから言葉を貰い、年長児の子どもたちの自信に繋がっています。

このように、子どもが頑張ろうとする気持ちを後押しする様々な仕掛けを用意した保育活動の中で、子どもたちは生き活きと園生活を過ごしています。保育士は子どもの良いところを共有して、一人一人の子どもの頑張りを自信につなげ自己肯定感が持てるよう援助しています。

● 職員は連携して子ども一人一人の姿を捉える保育が出来るよう配慮しています

子どもの一人一人の姿を大切に個々の発達に応じた援助をするよう心掛け、カリキュラム会議や職員会議、園内研修などを通じて職員全員が情報を密に共有しています。乳児の個人記録・毎月の発達記録や幼児の期ごとの発達記録と共に園では個人成長記録として「共有ノート」を作っています。「共有ノート」は、保育士が子どもの姿に成長が見られたことやその子の良さや輝きを見つけられたことなどを個別に子どもの姿や様子を記載して職員間で共有しています。また、緊急時の対応を要する子どもに対しては、どの職員も同様の対応が出来るように見やすい場所に手順書を置いています。このように職員は、“職員全員で全員の子どもたち見守る”という共通認識のもと、保育に臨んでいます。

2. 工夫・改善が望まれる点

● さらなる地域の子育て支援が期待されます

園は、ビルの4階にあるため中々地域と交流する機会がないなか、保育士は散歩で公園に行くたびにビニール袋を持参して公園内の危険物やごみを拾うようにしたり、絵本を持参して絵本の読み聞かせをする時に、公園で遊んでいる地域の親子がいれば誘うなどして、地域と交流が進むように工夫をしています。今年度は交流保育を企画して「親子リトミック」を実施しました。今後は、保育園の持っている専門性を活かして、「離乳食」や「手遊び歌」「絵本の読み聞かせ」「手作り玩具」など、地域の保護者や子どもに向けて子育てや保育に関する講習・研修会を開催することが期待されます。

◆ 分類別評価結果 ◆



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅰ-1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成



- (1) 保育の理念や基本方針が子ども本人を尊重したのになっており、全職員が理解し、実践しているか。
- (2) 全体的な計画は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。
- (3) 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。

- 保育理念は、「スターチャイルドは、子どもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践します。」です。保育目標・方針は「①よく考え、心身ともにたくましい子（自立と挑戦を支援します）、②個性豊かな子（個性を尊重し、長所を伸ばします）、③やさしさと思いやりのある子（社会性＝人と関わる力を身に付けます）」としており、利用者本人を尊重したものとなっています。職員会議やカリキュラム会議の冒頭で理念を唱和して理解するようにしています。玄関ホールに理念を大きく掲示し、さらに保護者に対しては入園のしおりに記載して、入園説明会などで説明しています。また、保護者が集まる機会に、保育理念をどのように実現しているかの画像を作成したものを見てもらって、理解を深めています。保育の実施内容は理念に沿ったものとなっています。
- 全体的な計画は保育理念に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成しています。地域特性として、山の緑に囲まれ、また海にも近い環境であり、自然豊かな場所の特性を生かして、自然物を見つけ工夫して遊ぶ経験を大切にするなど、地域の実態を取り込んで全体的な計画を作成しています。作成にあたっては、前年度末に職員から出された意見をまとめた計画をさらに、職員にフィードバックして作成しています。入園時や年度初めに保護者に対して説明しています。
- 全体的な計画に基づいて年齢ごとに指導計画を作成しています。自分で考えて行動することを推奨することから、子どもが納得することを大切にしています。年齢に合った形で子どもの意見を聞くようにしています。子どもとの関わりと援助について、カリキュラム会議などで話し合って指導計画を作成しています。

評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1) 入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2) 新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3) 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。
- (4) 乳児保育(0歳児)において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。
- (5) 1歳以上3歳未満児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。
- (6) 3歳以上児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

- ・入園時に保護者と面談し、入園までの子どもの生育歴や家庭での状況を状況確認表及び健康診断書に基づき記載してもらい、新入園児状況票に記録していきます。面談時に子どもを観察したり、家庭の教育方針などを聞き取って、職員間で情報共有し、保育に活かしています
- ・入園希望見学・入園説明会での口頭説明や入園のしおりに、慣らし保育について説明記載をしています。0歳児、1歳児の新入園児については担任全員が把握出来るようにしていますが、個別に主担当保育士を決めてはいません。心理的拠り所とするものの持ち込みは保護者と相談して対応しています。在園児の進級時には、交流を続けてきた上のクラスと継続して関係性が保たれるように配慮しています。クラス担任が申し送り事項を新担任に説明しています。
- ・乳児については個別の指導計画を作成し、毎月振り返りを行って、次の月の計画に反映しています。共有ノートという個別の子どもについて特記するノートを用意し、関わった保育士が誰でも気が付いた点、成長が見られた点について記載しておき、これも参考にして、カリキュラム会議では幼児についても話し合っって計画作成に反映しています。こうした会議には、日常的に保護者とのコミュニケーションの中での要望・意向も反映しています。
- ・0歳児については月齢による差が大きいことから、それぞれの子どもに丁寧に接しており、子どもの言葉や表情を読み取り、発達や状況に対応して保育士は必要な声掛けと援助をしています。毎日、育児日誌を作成し、乳児の状況を記録しています。連絡帳で保護者と情報を共有しながら、離乳食のスタート時期や内容について、保護者と密接な連携を図っています。
- ・1、2歳の子どもに対しては、言葉で自分の気持ちを言えない子ども、相手の気持ちを理解できない場合について、保育士が仲立ちして代弁して理解出来るようにしています。子ども的人数に合わせた環境設定や保育士の配置場所を工夫して危険のないように配慮しています。保育室はそれぞれの年齢に応じたおもちゃ類を揃えており、子どもたちが出し入れし易いよう棚の位置を工夫しています。保育室ではマットを使ってコーナーを設けたり、玩具を選びやすいように環境設定をしています。
- ・3歳以上の子どもでは仲間との関係がさらに重視されていきます。公園でのボールを使った遊びも各年齢の仲間意識の育ちに合わせて配慮しながら、運動能力を高め、必要な援助をしています。また幼児クラスでは、運動能力を高めるために、専門家に依頼して体操教室を実施しています。文字・数・量に興味を持てるよう、オリジナルの教材を用意しています。

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保



- (1) 子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。
- (2) 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3) 子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・保育室の窓は大きくとられ陽光も十分取り入れられる構造となっています。保育室は床暖房、加湿器、空気清浄機が設置されています。保育所内の清掃は、清掃チェック表に基づき清潔に保たれています。音を吸収する吸音パッドを壁に貼って、音が全室に響かないように工夫しています。保育者の声の大きさ、ピアノ、CDの音量が他のクラスに出来るだけ影響しないようにクラス間で音量や活動時間の配慮、調整を行っています。
- ・沐浴設備と温水シャワーが設置されており、管理や清掃は行き届いています。
- ・0、1、2歳児クラスの保育室はマットなどを用いたり、可動棚などを用いてそれぞれコーナーを作って小集団の保育が出来るように工夫されています。寝る場所については、0、1歳児クラスでは食後、丁寧に床を拭きとって清潔にしてから布団を敷いています。2歳児以上クラスは寝るときはコットを用いています。園自体はワンフロアであり、日常的に異年齢の交流が出来るようになっています。さらに、運動会などの行事を目指して、「なかよしかい」を開いて準備活動を異年齢で展開しています。

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1) 子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。
- (2) 子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- ・乳児については、個別指導計画を作成しています。3歳以上の子どもの場合、配慮を必要とする子どもについては、個別指導計画を作成しています。毎月開かれるカリキュラム会議で計画の見直しを行っていますが、週案の段階でも振り返りを行う中で、計画の見直しを行っています。また、離乳食、トイレトレーニング、箸の使用などの課題については、保護者との話し合いによって計画を作成しています。
- ・入園時に状況確認表に家庭の状況、保護者の要望を記載しています、入園後は子どもの発達・成長に関しては発達記録及び健康台帳に記載して記録に残しています。個人のファイルは鍵のかかるロッカーに保管しています。これらの情報を進級時には申し送り事項として記録し、次の担当保育士に伝わるようにしています。

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- (1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3) 虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができていますか。
- (5) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・配慮を要する子どもを受け入れています。要配慮児対応マニュアルが作成されており、職員は要配慮児への対応を周知しています。運営法人の研修や、神奈川県のカリキュラム研修に参加した職員が研修内容を他の職員に伝え、情報の共有を図っています。配慮を要する子どもの記録は、パソコン上に保管され、パスワードで管理されています。
- ・園はエレベータが設置されているビルの4階に位置し、内部は段差をなくしたバリアフリー構造となっています。障害のある子どもについては、南部地域療育センターと連携しており、巡回訪問も受けており、カンファレンスや専門的な助言を得ています。日常の保育において、他の子どもとの関係に特に配慮しています。保護者からの相談も受け入れやすい雰囲気意識して作っています。カリキュラム会議などで、配慮を要する子どもについてのカンファレンスを通して、情報の共有を図っています。
- ・虐待については、児童虐待対応マニュアルを作成しており、職員に周知しています。着替えの時などに身体をチェックし確認しています。登園・降園時には保護者と積極的にコミュニケーションを取り、相談したり助言しやすい雰囲気を作っています。虐待の疑いのある場合には、金沢区こども家庭支援課や横浜市南部児童相談所と連携を取っています。気になる家庭については、日常的に登園時、降園時に保護者とのコミュニケーションを深めて、状況をさらに把握するように努めています。
- ・食物アレルギー・誤食防止マニュアルが作成されており、これに加えて横浜市子ども青少年局から送られてきたアレルギーに関する通達も参考にしています。入園時の状況確認書・健康診断書等でアレルギーについて調査しており、アレルギーのある場合は医師のアレルギー疾患生活管理指導表を入手しています。保護者との連携を取って除去食の提供をしています。アレルギーに関して園内研修をしたり、アレルギー児に関する会議を開いて対応しています。アレルギー食を提供するときには他の子どもとは異なったプレートを用いて、テーブルも別にして、保育士がついて見守っています。
- ・文化や生活習慣の異なる子どもが入園した時には、その国の文化や生活習慣を大切にしています。入園のしおりの英語版を用意するなど、意思疎通が困難な場合の対応策を講じています。

評価分類 I-6 苦情解決体制



- (1) 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2) 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- 苦情受付窓口は事務が担当し、責任者は施設長となっています。重要事項説明書には、第三者委員の名前と電話番号が記載されており、誰でも直接苦情を申し立て出来るようになっていました。運営法人は保護者に対するアンケートを実施し、その結果は園にフィードバックされています。自分で意見を表明することが困難な保護者に対しても、日常的な登園・降園時の話の中で聞くように努めています。入園時の重要事項説明書には苦情対応の説明がされており、かながわ福祉サービス運営適正委員会の電話番号も掲載されています。
- 苦情や要望に対しては、苦情・要望対応マニュアルを作成し、職員に周知しています。解決までの手順が記載されており、迅速な対応が可能となっています。しかし、これまで苦情として処理されたケースがないために、苦情・要望等の記録したデータが整備されていません。今後、積極的に保護者からの要望・意見・苦情等を記録して整備していくことが期待されます。

評価分類Ⅱ－1 保育内容〔遊び〕



- (1) 子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。
- (2) 遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。
- (3) 動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。
- (4) 子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。
- (5) 遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。
- (6) 積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

- ・子どもの年齢や発達、子どもの興味にあわせて、手作り玩具や布製のおもちゃ、ブロック、パズル、ままごとセット、手作りエプロンなどを子どもの手の届く場所に用意して、マットやテーブルなどでコーナーを作り落ち着いて遊べる環境になっています。おもちゃや教材等は種類ごとにカゴに入れられており、子どもたちは自分で選んで遊び、好きなことをして遊び込める時間が確保出来るよう配慮しています。また、どの保育室も図鑑や絵本などを自由に見ることができ、子どもたちは活動の合間などの時間に絵本を読んでいる姿が見られました。
- ・保育士は子どもたちの自由な発想を受けとめ、行事や日々の保育活動を実施しています。例えば、子どもたちの好きな曲を運動会のダンスに取り入れたり、アイスを作りたいという要望から折り紙でコーンや色々なアイスを制作しました。自由遊びの時間には友達とごっこ遊びをしたり、落ち着いて絵本を読んだりして遊んでいます。保育士はドッジボールなどルールのある遊びを取り入れたり、遊びが見つからない子どもには、一緒にやってみよう誘うなど、子どもたちが興味や関心を持って遊べるよう援助しています。
- ・園は、ビルの4階にあり栽培をするには難しい環境ですが、室内で育てられるラディッシュや豆苗、ブロッコリースプラウトを栽培して成長を観察したり、収穫して食べたりしています。園長は毎月の誕生会で季節の花や虫などを画像を示しながら話すことにより子どもが関心を持てるようにしています。子どもたちは戸外活動で昆虫や小動物、植物の名前などに関心を持って図鑑や絵本で調べています。
- ・子どもたちは散歩や園外活動で出かけた時に出会う地域の人と挨拶を交わし、近隣公園や金沢自然動物園、海の公園、称名寺などで四季の花や虫を見つけたり、どんぐりや落ち葉を拾うなど、地域を知り、自然に触れる機会を持っています。また、幼児クラスは芋ほり遠足で収穫の体験をしています。
- ・子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現出来るよう、制作や歌、リトミックなどを行っています。段ボールやラップの芯などの廃材、自由画帳など自由な制作のために様々な素材が用意されています。また、クレヨンや色鉛筆、折り紙なども自由に取り出せます。自由遊びの時に絵を描いたり、様々な場面で自由に歌っている姿が観察できました。
- ・子ども同士のけんか等について保育士は、乳児の場合はケガのないよう間に入り、双方の子どもの気持ちを代弁するなどして援助しています。幼児の場合は子どもたちが自分の気持ちを表現し、お互いが納得出来るよう見守り、言葉かけしています。子どもたちは朝夕の合同保育や散歩、行事、誕生会など保育の中で自然に異年齢で交流しています。また、「なかよしかい」では異年齢の子ども同士が関わられるよう配慮しています。
- ・発達に応じて運動能力が高められるよう積極的に散歩や戸外活動を取り入れています。午睡後や少しの時間を利用して屋上で身体を動かしています。また、乳児はマット、跳び箱などを工夫し、発達に合わせた運動遊びを行っています。幼児は月2回外部講師による体操の時間を設け、また様々な遊びの中で全身を使って活動出来るよう工夫しています。紫外線対策としてネックガード付帽子を着用し、希望者はUVカット対応の上着を着用しています。屋上での水遊びの際はタープを取り付けています。

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔生活〕



- (7) 食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8) 食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9) 子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10) 子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11) 午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12) 排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。
- (13) 長時間にわたる保育のための環境を整え、配慮した保育が行われているか。

- 保育士は「美味しいよ」など声掛けし、子どもたちが自分から食べようとする意欲を大切に援助しています。授乳や離乳食は、子ども一人一人の状況に応じて、保護者と担任、栄養士が連携を取って個別に対応しています。授乳する時や離乳食の介助は個人差を考慮して子どものペースにあわせて声掛けしています。幼児は当番活動でその日の献立を発表するなど子どもたちが給食に関心を持つよう配慮しています。2歳児クラスから年間指導計画に食育の項を設け、年齢に応じて皮むきや野菜をちぎったりして食材に触れたり、クッキングをするなど食材や食事及びその過程に関心が持てるよう工夫しています。
- 月に一度、系列園の栄養士が集まり栄養士会議で統一した献立を作成しています。季節感を大切に旬の食材を使い、季節の行事にあわせた献立を取り入れています。食材は、国産で産地の明確なものを使用するなど安全性を重視し、納品後の食材は適切な温度管理をして保管し記録しています。食器は強化磁器を用い、食器の大きさやスプーンの種類や箸への移行などを年齢や発達に応じて変えるなど配慮しています。
- 栄養士は、給食やおやつ時間にクラスを回り、子どもたちが食べている様子を見たり、給食日誌の残食記録やクラス担任からの得た子どもの嗜好などの情報を参考にして、調理方法や味付けなどを工夫して次に活かしています。
- 園は「献立表」と「給食だより」を事前に保護者専用アプリで配信し、玄関などに掲示しています。その日の給食のサンプルを玄関に置き、お迎えの時に保護者が確認出来るようにしています。「給食だより」に”子どもが元気になる食事”や”旬の食材”などの情報提供やおすすめメニューとして月の献立からレシピを掲載しています。夏祭りではおやつを試食を行っています。
- 午睡は、明かりを調節して保育士がトントンしたり、子どもの体をさすったりして子どもたちが安心して眠りにつけるよう配慮しています。眠れない子どもには、身体を休める時間として静かに過ごすよう援助しています。乳幼児突然死症候群対策として、0、1歳児は5分間隔、2歳児以上は20分間隔で睡眠時の呼吸や顔色、身体の向きなどチェックを行い「おひるねチェック表」に記録しています。年長児は10月から午睡をせずに、「45分授業」や机上遊びなどをして過ごします。
- 子どもの排泄リズムを捉え、個人差を尊重して援助しています。外出時や午睡前など活動の区切りにはトイレに誘いますが、強要しないよう心掛けています。トイレトレーニングは一人一人の状況を見て保護者と連携しながら個別に対応しています。おもらしをした子どもには、恥ずかしい事ではないと伝え、自尊心を傷つけないよう、さりげなく対応しています。
- 長時間保育では、子どもの体調や様子を見ながら、身体を動かして遊んだり、静かに過ごせる時間や環境を設けるよう配慮しています。保育時間の長い子どもには、補食と夕食を提供しています。子どもたちの一日の生活の連続性が保たれるよう、朝の受け入れ時からお迎えの時間までの伝達は、各クラスの「クラスの連絡ファイル」に子どもの様子など伝達事項を記入し、担任以外でも保護者に伝達出来る体制をとっています。また、担任がすべき連絡事項は、引き継ぎでなく担任が保護者に直接または、電話連絡で伝えています。

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】



- (1) 子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2) 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3) 感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- 子どもの健康管理に関するマニュアルには、毎日の健康状態の観察のポイントが明記され、マニュアルに基づき一人一人の健康状態を把握しています。入園時に得た情報で既往歴等を把握し、保護者から新しい情報を得た時は健康台帳に追記しています。更新された情報は職員間で共有しています。
- 保育士は登園時に子どもの様子を観察し、保護者から連絡帳や口頭で様子を聞くなどしています。乳児は「育児日記」に記録し、健康状態をチェックしています。また、必要に応じて園での子どもの健康状態について保護者と電話連絡したり、降園時に口頭で状況を伝えたりして、保護者と降園後の対応を話し合っています。食後の歯磨きは、1歳児から食後の習慣として歯ブラシを持ち、保育士が仕上げ磨きをしています。幼児から歯磨きの大切さを絵本で知らせ歯磨き指導をしています。
- 年2回健康診断と歯科健診が行われ、結果は健康診断は口頭で、歯科健診は保護者に書面で知らせています。嘱託医とは日頃から情報提供を受けたり、子どものケガや病状などわからないことがあれば助言を受け、随時相談するなど連携を図っています。
- 感染症マニュアルには、各種感染症とその対策、対応方法等が明記されています。保護者には、登園停止基準や感染症等の疑いが生じた場合の対応を「入園のしおり（重要事項説明書）」を配布して説明しています。保育中に感染症の疑いが生じた場合には、担任が施設長に報告して、保護者に速やかに連絡し、他の子どもと離れて事務室で静かに過ごします。感染症が発生した時は園内に掲示する他、保護者専用アプリで配信して知らせています。感染症に関する最新情報は金沢区役所や運営法人などから入手でき、その都度職員に周知しています。

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】



- (4) 衛生管理が適切に行われているか。

- 衛生管理に関するマニュアルがあり、運営法人では定期的に見直しをしています。見直されたマニュアルには、改訂日時が記載され、改訂された内容は赤字で表示して改訂されたことを示しています。改訂時は随時職員に周知しています。園では、園内研修や職員会議、カリキュラム会議などで読み合わせを実施するなど、マニュアルを確認する機会を設けています。また、園独自のトイレ清掃の手順書を作成しています。
- 保育室やトイレ等の清掃や備品等の消毒はマニュアルに基づいて行い、「掃除チェック表」に記録され、園内外は清潔な状態が保たれています。

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5) 安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6) 事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。
- (7) 外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・プール・水遊びマニュアルでは、専任の監視者を配置して役割分担するように定めるなど、職員会議などで啓発し重大事故につながらないよう職員に周知しています。
- ・安全管理に関するマニュアルとして「安全管理・災害時対応マニュアル」「事故防止マニュアル」「事故対応マニュアル」「不審者対応マニュアル」などがあり、マニュアルは事故や災害に適切に対応し、全職員に周知しています。緊急連絡体制は確立しています。地震を想定して転倒防止策がとられ、避難訓練年間計画を作成して、避難訓練や通報訓練の他、高台避難訓練、広域避難場所への訓練などを毎月実施し、「避難訓練実施記録」「消火訓練実施記録」に記録しています。安全については、「安全配慮チェック表」「自主点検チェック表」にチェックするなどの安全対策が講じられています。園内研修で心肺蘇生法、AED シュミレーション研修を実施しています。
- ・保護者の緊急連絡先や医療機関、金沢区こども家庭支援課、金沢消防所、金沢警察署、横浜市南部地域療育センターなどの関係機関との連絡体制は確立しています。子どものケガについては、軽傷であっても担任から施設長に報告し、必要に応じて事前に保護者に電話で報告し、降園時に口頭で直接保護者に状況を伝えています。事故やケガの状況は記録し、事故防止委員会で再発防止策を検討し職員会議で改善策を周知をしています。
- ・玄関はオートロックで管理され、警備会社と契約して 24 時間のセキュリティ通報システムが導入され、防犯カメラも設置されています。不審者を想定した避難訓練を実施しています。不審者情報については、金沢警察署から情報を入手し、ビル会社や警備会社への巡回依頼など連絡体制がとれています。

評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重



- (1) 保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2) 必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3) 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4) 性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・園の理念を「すべては、子どもたちの輝く未来の為に」として子どもの最善の利益を第一に考えています。施設長は園内研修や職員会議等で子どもの気持ちを受け入れて肯定的な言葉掛けで接することを職員に伝えています。幼児クラスでは、せかしたりせず、子どもに気付きを与える言葉で子ども自身が考える言葉かけを工夫しています。日々の保育の中で子どもへの対応について職員同士で話し合ったり、会議で意見交換するなどして実践につなげています。
- ・友達や保育士の視線を意識せず過ごせる場所として、意図的に一人で過ごすスペースを作ることができます。事務室など必要に応じて子どもと一対一で話し合える場所があります。幼児トイレにドアを設置し、着替える時にはカーテンを引くなどプライバシーに配慮しています。
- ・運営法人はプライバシーマークを取得しており、園は守秘義務の意義や目的を職員やボランティア・実習生に周知しています。個人情報取り扱いについてのガイドラインとして「個人情報管理マニュアル」が整備されており、全職員に周知しています。個人情報の取り扱いについては、入園説明会で保護者に説明し、同意書を得ています。また、職員からも同意書を、ボランティア・実習生からは誓約書を得ています。個人情報に関する記録はすべて施錠出来る場所に保管、管理しています。
- ・保育マニュアルに「差別禁止マニュアル」があり、性差による差別や固定観念による話し方や表現を戒めています。職員は定期的にマニュアルを確認する機会を持ち、施設長は気づいた時に助言するようにしています。遊びや行事の役割、服装などで男女の区別することなく、クラス内での順番やグループ分け等も区別なく活動しています。

評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- (1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3) 保護者の相談に応じているか。
- (4) 保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6) 保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

- 入園時に配布する「入園のしおり」やパンフレット、ホームページなどに保育方針・保育目標を明記し、園内にも掲示しています。保護者には、保育の基本方針が理解出来るよう入園説明会や懇談会などで説明する機会を設けたり、日常の保育の中で園だよりやクラスだよりなどで保育方針が理解されるよう努めています。また、運営法人が実施する保護者へのアンケートなどを通して、保育の基本方針が理解されているか把握しています。
- 降園時にその日の子どもの様子を伝え、保護者と情報交換するよう努めています。乳児クラスは園が用意した、毎日の家庭と園生活の連続性を考慮した書式の「育児日記」を使用し、幼児クラスは保護者が用意した個人ノートが必要な時に使用しています。個人面談は、年1回「個人面談強化月間」を設けて実施するほか保護者の希望に沿って随時行われています。懇談会は、年度末に実施して、次年度の担任と保育の内容や目的を伝えています。
- 保護者からの相談は、人に聞かれず、落ち着いて話が出来るよう面談時間と場所に配慮しています。相談を受けた職員が適切な対応が出来るよう施設長から助言を受けられる体制になっており、必要に応じて施設長が同席して対応することもあります。相談内容は記録し、継続的なフォローができています。
- 園だよりやクラスだよりは、保護者専用アプリに配信するほか、園内に掲示して園や子どもの様子、子どもに関する情報などを伝えています。全クラスのその日の保育の様子をホワイトボードに記載して玄関に掲示するほか、行事や保育活動を写真に撮って掲示して活動内容を保護者に伝えています。また、保育の様子をブログで知らせています。
- 保護者が予定を立てやすいよう、年度末に翌年度の年間行事予定を配信し、園だよりでは当月の予定の詳細を知らせています。保育参観、保育参加は随時受け付けています。懇談会等に出席できなかった保護者には、個別に対応して伝達出来るようにしています。
- 保護者の自主的な活動は無く、場所の提供などはまだありませんが、園の運営委員会に保護者の代表が意見や要望を集めて参加して意見交換をするなどコミュニケーションをとっています。

評価分類Ⅲ－1

地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- (1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。
- (2) 地域の子育て支援ニーズに応じて保育所の専門性を活かしたサービスを提供しているか。

- ・園は子育てを支援するためのサービスとして、育児相談、交流保育を提供しており、その取り組みの中で地域の子育て支援ニーズを把握しています。地域の保護者等の子育て相談を受ける中で保育所に対する要望を把握しています。また、施設長は金沢区公私合同園長会議や幼保小連絡協議会、主任児童委員連絡協議会、金沢区健やか子育て連絡会、研修会等に参加して子育て支援ニーズを把握するよう努めています。
- ・地域の子育て支援ニーズについて職員会議やカリキュラム会議で話し合っています。地域での子育てを支援するためのサービスとして、「赤ちゃんの駅」に登録してだれでも自由にオムツ交換などが出来るスペースを提供しています。また、交流保育「親子リトミック」を実施し、6組の親子と在園児で交流しました。しかし地域の保護者や子どもに向けて子育てや保育に関する講習・研修会を開催するには至っていません。

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を活かした相談機能



- (1) 地域の保護者や子ども等への情報提供や育児相談に応じているか。
- (2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

- ・育児相談は電話予約で何時でも対応しています。育児相談は電話や来園のほか、園見学、交流保育の参加者などに対して実施しています。園からのお知らせを玄関に掲示したりホームページやブログで情報を提供していますが、ビルの4階に位置し地域への情報提供が難しい立地となっており、地域にお知らせなどを回覧するなどの情報提供は実施できていません。
- ・地域の医療機関や金沢区こども家庭支援課、金沢区保健福祉センター、横浜市南部地域療育センターなど相談内容に応じて必要な関係機関はリスト化されており、情報を職員は共有しています。また、関係機関との連携は施設長が担当し、日常的に連携がとれる体制になっています。

評価分類Ⅳ－１

保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- (1) 保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。
- (2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。

- ・園が主催する子育て支援活動の「親子リトミック」を実施し、未就園児の親子が参加しています。自治会や町内会には所属しておらず、決まった地域団体、機関と定期的に交流をすることには至っていません。金沢区の主任児童委員連絡協議会には小学校、幼稚園、保育園など園児・児童・生徒に関わる関係者が集まっており、この会議に施設長が参加し、情報交換をしています。白バイ、パトカー見学・警察音楽隊楽器演奏会には、園児も参加して楽しんでいます。散歩に行った近隣の公園で清掃活動、ゴミ収集活動を行ったり、近隣の子どもたちを加えて遊ぶなど、近隣との友好的関係を築くように努めています。ただし、地域への施設開放や備品の貸出は実施していません。
- ・近くの横浜市金沢図書館や、称名寺を散歩などで利用しています。散歩などの時には地域の人と挨拶を交わすなど、地域の人たちと交流を図っています。横浜市立さくら保育園で園庭開放を実施しているので、4・5歳児が参加して利用しています。スポーツフェスティバルとして近隣の5つの保育園で交流し、ドッジボールやゲームを楽しんでいます。また、近くの「海の公園」で実施している「いきいきフェスタ」というイベントには準備段階から参加し、園としても育児相談に参加しています。

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供



- (1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。
- (2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

- ・ホームページを作成しており、その中で園の様子や保育の内容を積極的に公開しています。また、横浜市金沢区子育て情報冊子「キラキラMAP」に情報提供し、園に対する理解を深めてもらっています。
- ・園に対する問い合わせに対しては積極的に対応し、見学は個別に、随時行っており、その際には園の概要を記載したパンフレットを渡して、理解が深まるようにしています。

評価分類Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ



- (1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。
- (2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。

- ・ボランティアの受け入れマニュアルは整備されており、責任者は施設長となっています。これまでに中学校から職業体験としてボランティアで来てもらっており、感想文を提出してもらい、職員間で情報共有を図っています。
- ・実習生受け入れマニュアルが作成されており、これに基づいて受け入れが行われています。受け入れの責任者は施設長となっており、受け入れた記録が作成されています。受け入れ先との関係から実習プログラムが作成され、実習最終日には反省会を開催し、意見交換を行っています。

評価分類V-1 職員の人材育成



- (1) 保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。
- (2) 職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。
- (3) 非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。

- ・施設長及び運営法人は人員構成について常にチェックをしています。運営法人では職員の経験年数や技量に応じた人材育成計画を作成しており、これに従って職員のキャリアパスが設定されています。職員は、毎年期の初めと中間時点で自分自身の目標を定め能力・技術の向上に努めています。期末には施設長との面談により、どの程度目標を達成したかを、自己評価する仕組みを作っています。
- ・非常勤職員を含めて内部研修は誰でも受けることができます。運営法人では、職員の階層別に研修メニューを用意し、神奈川県や横浜市が主催する職員研修には、職員は必要な研修を申請して受講することができます。研修報告では日常の業務にどのように役立っているかの評価も実施しており、研修内容のチェックも行っています
- ・非常勤職員にも保育マニュアルを配付し、非常勤職員と常勤職員と必ず組み合わせる保育を実践しています。非常勤職員はパート会議に参加しており、この中で必要な情報を共有しています。乳児対応マニュアルなどの読み合わせなど園内研修も行われています。非常勤職員の指導は施設長が行っています。

評価分類V-2 職員の技術の向上



- (1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。
- (2) 保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。
- (3) 保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

- ・年度の始めと半期の終了時点で職員は自分の目標を設定し、その実行計画を作成していくことが求められています。期が終了した時点で施設長とともに振り返りを行い、その達成状況を評価しています。園内研修が計画的に開かれており、職員の能力向上に努めています。南部地域療育センターからは巡回指導に来てもらっており、障害児の対応について指導を受けています。
- ・月案や、週案では、保育士たちは目標を設定し、終了時点でその目標の達成状況を振り返り、次の計画の作成時に反映しています。
- ・半年に一度ずつ、職員の目標設定シートを使って、保育業務や研修への取り組み方などを、本人が自己評価し、施設長がそれをチェックする仕組みがあります。職員はグループワークを実施し園の評価について議論し、まとめています。園の自己評価については保護者にも公表しています。

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持



- (1) 総合的な人事管理が行われているか。
- (2) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・運営法人では職員のキャリアパスを作成しています。キャリアパスに連動して能力開発・研修が設定されています。達成度については、施設長と年に2回面談があり、双方で確認しながら評価していきます。
- ・運営法人では職務区分・ランクを設定し、各ランクで必要とする技能・能力を示しています。これは人事考課・給与ランクとも連動し、さらにキャリアパスが連動しているので、職員は自分の目指す方向と能力開発が分かるような仕組みとなっています。カリキュラム会議などで、職員の働きやすい環境づくりという点で、意見が出されています。有志の職員が本部主催の「向上会議」に参加してこれらの意見を出すことで、職場改革に結び付けています。年度末に施設長は職員と面談し、職員の要望や満足度について把握しています。

評価分類VI-1 経営における社会的責任



- (1) 保育所として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。
- (2) 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みが行われているか。
- (2) 保育の質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

- ・ 職員の倫理規定が作成されており、職員に配付されています。マスメディアに取り上げられた保育園での不正・不適切な事例について職員間で議論しています。簡単な事業報告書は作成されていますが、経営・運営状況の情報提供は行われていません。今年度末には運営法人は個々の保育園の収支等の経営情報を公表する予定です。
- ・ 職階・職種別に職務分掌が規定されており、職員に周知しています。園の経理・事務処理については、運営法人からチェックが入り、監査を受けています。経営状況については、本部に公認会計士などの外部からチェックが入る仕組みとなっています。
- ・ 環境への取り組みのマニュアルがあり、ゴミの分別収集、コピー用紙の再利用などに取り組んでいます。使われていない保育室の電気をこまめに消すなど、常時節電に取り組んでいます。

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- (1) 保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。
- (2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。
- (3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

- ・ 保育者マニュアルを作成しており、その中に保育理念が記載されており、職員全員に配付しています。保育理念は、職員会議や園内研修時に唱和しており、職員は周知しています。
- ・ 今回の保育料無償化及び消費税の10%への改定に伴って、保育料、給食費等の改定が必要となりました。これについて保護者への説明を行った後に、同意書を提出してもらいました。今後も、例えばアレルギーへの対応方法を改訂するなどの園にとって重要な課題が生じた時には栄養士、保育士、リーダー、サブリーダーが検討チームを作り対応することになっています。
- ・ 運営本部では、主任クラスのリーダー、サブリーダーを育成するプログラムを実施しています。また神奈川県の実施するエキスパート研修には、リーダー、サブリーダーを積極的に参加させています。リーダーとサブリーダーは、施設長の助言を受けながら、個々の職員の業務状況の把握や助言を実施し、精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう支援しています。

評価分類VI-3 効率的な運営



- (1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。
- (2) 保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・ 保育園の運営に影響のある情報は、運営本部から情報提供されるだけでなく、施設長は金沢区保育園園長会の集まりなどからも情報収集しています。重要な情報はリーダー会議や職員会議などで職員との情報共有に努めており、運営面で重要な情報は園全体の問題として取り組んでいます。
- ・ 運営法人は2017年から2019年10月までの中期的な行動計画を策定しています。運営法人とは別に園では5年間の長期計画、さらにこれに基づいて2019年度から2021年度までの中期計画を策定しています。これを基本として、単年度計画を策定しています。今後の新人育成をより効果的に進めるためのチューター制度を検討しています。運営法人は施設長、主任クラスの育成を実施しています。事業運営については大学の保育関係の専門家に指導を仰いでいます。

◆利用者家族アンケート◆

【実施概要】

- 実施期間：令和元年7月10日～7月25日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、
評価機関に直接郵送してもらった
- 回収率：配付64件、回収40件、回収率62.5%

【結果の特徴】

問1の「保育目標・方針」は、65.0%の方が知っており、その93.3%の方が賛同しています。

問2～問7で、「満足」の回答が70%以上の項目は、次のとおりです。

- 問5 「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について」・・・75.0%
- 問4 「お子さんが給食を楽しんでいるかについて」・・・75.0%
- 問4 「基本的生活習慣の自立に向けての取り組みについて」・・・72.5%
- 問7 「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」・・・72.5%
- 問4 「給食の献立内容について」・・・70.0%

そのほか、問4の「遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについて」「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについて」、問6の「開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応について」などの項目で、65%以上の満足となっています。

問2～問7で、「不満度」(「不満」+「どちらかといえば不満」)の回答が多かったのは、次のとおりです。

- 問5 「施設設備について」・・・25.0%
- 問4 「子どもが戸外遊びを十分しているかについて」・・・22.5%
- 問6 「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」・・・17.5%
- 問4 「おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについて」
15.4%

保育園の総合満足度は、100%となっています。(「満足」50% 「どちらかといえば満足」50%)

自由記述欄では、「どの先生方も子供を名前でご呼んでくださり、今日の出来事などしっかりお話してくれます」「担当の先生方、他のクラスの先生方にもとてもかわいがっていただき、私の相談にも乗ってもらい、とても心強く思っています」「優良な保育園と考えます。年度ごとの改良点も工夫がなされています」などの意見のほか、「保護者会を開いて欲しい」「送迎時の遊ぶスペースが狭すぎるので広げて欲しい」「行事(夏祭り)の内容が毎年だいたい同じ。行事ごとにアンケートとって欲しい」などの意見が見られました。

スターチャイルド《金沢文庫ナーサリー》利用者家族アンケート集計結果

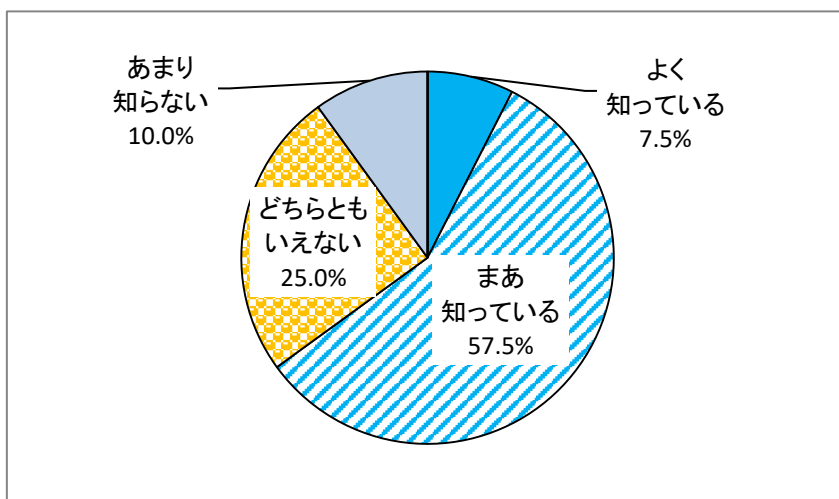
実施期間	令和元年7月10日～7月25日
調査対象	利用者家族
配布世帯数	64件
有効回答数	40件
回収率	62.5%

お子さんのクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答	(人)
	0	11	8	9	8	4	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

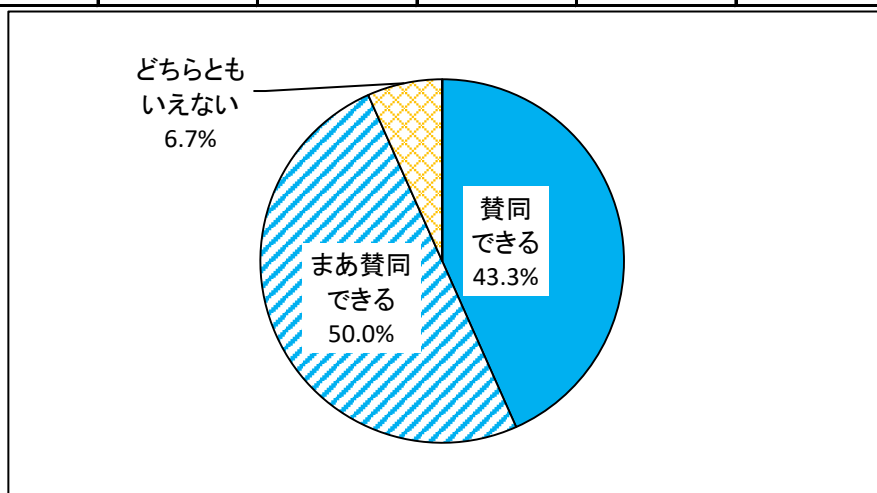
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	7.5	57.5	25.0	10.0	0.0	0.0	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	(%)
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	43.3	50.0	6.7	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	60.0	27.5	0.0	0.0	12.5	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	57.5	30.0	5.0	0.0	7.5	0.0	
園の目標や方針についての説明には	45.0	42.5	5.0	2.5	5.0	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	62.5	32.5	0.0	0.0	5.0	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	52.5	35.0	5.0	2.5	5.0	0.0	
費用やきまりに関する説明については	57.5	32.5	0.0	7.5	2.5	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	50.0	35.0	5.0	7.5	2.5	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	32.5	32.5	7.5	2.5	22.5	2.5	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	62.5	30.0	5.0	0.0	0.0	2.5	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	52.5	25.0	17.5	5.0	0.0	0.0	
園のおもちゃや教材については	60.0	27.5	2.5	5.0	5.0	0.0	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	52.5	35.0	7.5	2.5	2.5	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	65.0	32.5	2.5	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	57.5	35.0	2.5	2.5	2.5	0.0	

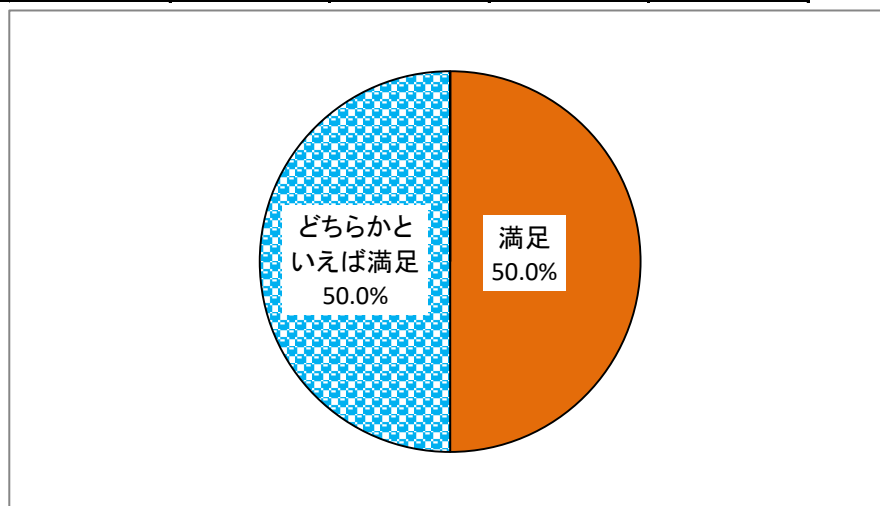
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	70.0	25.0	5.0	0.0	0.0	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	72.5	27.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	65.0	20.0	2.5	10.0	2.5	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	53.8	23.1	15.4	0.0	7.7	0.0	
お子さんの体調への気配りについては	62.5	30.0	2.5	2.5	2.5	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62.5	27.5	7.5	2.5	0.0	0.0	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	42.5	25.0	20.0	5.0	5.0	2.5	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	50.0	35.0	7.5	2.5	2.5	2.5	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	60.0	27.5	10.0	0.0	2.5	0.0	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	75.0	17.5	2.5	2.5	0.0	2.5	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	40.0	30.0	10.0	7.5	12.5	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	52.5	42.5	2.5	2.5	0.0	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	52.5	40.0	0.0	5.0	2.5	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	55.0	37.5	5.0	2.5	0.0	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	62.5	22.5	7.5	0.0	5.0	2.5	
保護者からの相談事への対応には	50.0	37.5	10.0	0.0	2.5	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	65.0	17.5	7.5	0.0	10.0	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	60.0	37.5	2.5	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	72.5	20.0	2.5	2.5	0.0	2.5	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	52.5	15.0	2.5	0.0	27.5	2.5	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	57.5	40.0	2.5	0.0	0.0	0.0	
意見や要望への対応については	52.5	35.0	10.0	0.0	2.5	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	



◆利用者本人調査◆

【実施概要】

■実施日時：令和元年10月16日、10月18日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また、幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

《遊び》1歳児クラスと一緒にサーキット遊びです。遊具をハイハイで潜り抜け保育士と顔を見合わせ「いた、バァー」と声をかけてもらいます。跳び箱台では自分でよじ登り、保育士に手を取ってもらい両足でジャンプすると保育士は拍手して褒めています。マットで作ったトンネルを覗くと、保育士に「おいで、おいで」と手招きされてハイハイの姿勢で楽しそうに進んでいます。

《食事》1歳児クラスのテーブルで一緒に食べます。右手にフォークを持って口まで運びます。食欲よく手も使って食べています。「お肉もどうぞ」と声をかけ、食器の位置を変えたりしています。保育士も様子を見て口までご飯を運ぶなど援助しています。

《排泄》保育士に支えてもらい立位でオムツを替え、保育士の膝の上でズボンを穿かせてもらいます。

《着替え》保育士は子どもに声をかけながら着替えをしています。

《午睡》パジャマに着替え、絵本を読んでもらい、つき組の子どもと一緒に布団に横になり保育士に身体をさすってもらい眠りに入ります。

●1歳児クラス

《遊び》音楽に合わせて体操した後、遊具で遊びます。マットで作った山を登って降りて、フープを両足揃えてジャンプしています。跳び箱台では登ってジャンプして下り、マットの上をゴロゴロと横転しています。子どもたちは保育士に見守られてサーキット遊びを楽しんで次々に挑戦しています。保育士手作りの電車に乗って電車ごっこが始まり、保育室をぐるりと回ると次々に乗りたい子どもが増えます。

《食事》手洗いをし、席に着くとエプロンを自分で身につけ、手のひらに消毒スプレーをかけてもらいます。配膳されるまで手遊び歌や絵本を読んでももらいます。献立を発表して食事が始まります。子どもたちが自分で食べられる様に保育士は個々に援助しています。フォークを使って上手に食べています。

《排泄》ズボンを脱いで、オムツが濡れていないとマットの上でオムツを取って便座に座ります。

《着替え》保育士が脱ぎ着を手伝います。なかには、出来るところまで保育士が援助して、あとは自分でするように促すと、自分で袖を通すなど脱ぎ着をしています。

《午睡》明かりを調節して、子どもの布団の間に保育士が入り、身体をさすったり、背をトントンしたりして眠りを誘っています。

●2歳児クラス

《遊び》雨で散歩が中止になったので広い幼児室で「パプリカ」の音楽に合わせて大きな動作で元気に動きます。2歳児保育室ではテーブルにブルーシートをかけて粘土遊びの準備です。テーブルに着いて

制作が始まります。ペタペタ、グリグリ、ゴロゴロ集中して手を動かしています。段々形になってきました。「あっ、焼き芋だ」「お団子が転がっている」「ハンバーグ」思い思いの物が出来ます
《食事》子どもたちはフォークとスプーンを使って上手に食べています。保育士に食べやすいよう「集まれ」をしてもらい、「ピカピカだよ」と見せています。お代わりも盛んにしていて食欲旺盛です。
《排泄・着替え》保育士から上手に脱げるように励まされ、マットの上でズボンを脱ぎ、便座に座ります。別の専用マットの上でオムツを穿き、保育士が向きを直したズボンを手伝ってもらい穿きます。専用マットは使用する度に消毒します。
《午睡》出来ない所を助けてもらいパジャマに着替えて保育士に見守られてコットで寝ます。

●3歳児クラス

5歳児と手を繋いで散歩に出かけます。道路側を5歳児が歩き、自転車が通る時は止まって安全を確認めます。公園では保育士が周囲の安全を確認する間、当番を中心に輪になって準備運動です。当番が「1,2,3,4」と声をかけ、「5,6,7,8」と元気な声で復唱して膝の屈伸、足伸ばし、腕回し、ジャンプ、手首・足首・首回しなどを行っています。保育士が今日の目的「秋の自然を集めましょう」と話すと子どもたちは早速「きれいな葉っぱ見つけた」「見せて」「赤い葉っぱ」「探しに行こう」「こっちにもあるよ」と会話が弾んでいます。砂を掘っていた子どもが「見て、幼虫見つけたよ」と走って皆に知らせています。子どもたちは、楽しそうにドングリや色づいた葉、猫じゃらしなどの秋の自然を探しています。切り株の上でダンスをしている子どもを見つけ子どもたちは集まって来て一緒に踊ったり、ジャンプして下りたりしています。保育士を追いかけて、追いかけっこが始まります。電車が通ると子どもたちは手を振って見送ります。「今日は青と黄色の電車を見たね」と嬉しそうに話しています。お茶を飲んで帰りの準備をします。帰園して、スモックと帽子を脱ぎ、自主的に手洗い、うがい、トイレを済ませています。

●4歳児クラス

散歩で公園に出かけます。準備運動を済ませ自由に遊んでいます。保育士と一緒に大縄跳びに挑戦しています。始めは回している大縄に入る練習をしていましたが跳び込むタイミングが難しいので回している大縄の中を通過する練習を繰り返しています。大縄に入って1,2と数えてもらい10まで跳べた子どももいます。砂場では団子を作ったり、砂を積み上げて「見て、富士山みたい」と山を作っています。鉄棒では足掛け上りをしている子どもがいます。滑り台や馬乗り遊具に子どもたちが集中すると自分達で10まで数えて交代をしています。広いところでは鬼ごっこが始まり、ボール蹴りをしている子どももいます。保育士が落ち葉を集めているのを見て子どもたちも色とりどりの落ち葉を集めて次々とビニール袋に入れていきます。帰園して支度を済ませると制作が始まります。黒い画用紙に採集してきた落ち葉や木の実を子どもたちは思い思いに並べ貼り付け、画用紙一面に落ち葉の作品が出来上がり、保育室の壁に掲示します。子どもたちは自分達の作品を鑑賞し合って喜んでいます。

●5歳児クラス

公園では「60秒間縄跳び」にチャレンジです。保育士が一人ずつ60秒間跳べるのを見守り、出来ると「60秒間跳べました」と褒めています。保育士が跳べた子どもにインタビューをすると「とてもいい気持ちです」と喜びを伝えています。保育士が地面に線を引いてコートを作りドッジボールが始まり

ます。子どもたちとルールを確認します。両チーム2人の子どもがコート中央に出て保育士がボールをトスして取った方が攻撃です。ゲームが始まると、内野で逃げ回る子どもも多いですが、積極的にボールを取りに行き当たってしまった子どもは、今度は外野から相手にボールを当ててコートに戻ると、とても嬉しそうです。段々、声を掛け合いながら動けるようになり、外野も三方面使って攻めています。上手くボールを受けられると保育士は拍手して褒めています。コート内の人数は減ったり増えたり、時間になって保育士が人数を数えて勝敗が決まりました。ゲームが終わっても保育士を相手にキャッチや投げる練習をして、保育士の「正面で受けて」などのアドバイスを真剣に聞いて繰り返しています。

◆ 事業者コメント ◆

平成 24 年 4 月に開園したスターチャイルド《金沢文庫ナーサリー》は、8 年目を迎え 2 回目の第三者評価を受審いたしました。

第三者評価受審の過程から自己評価項目一つひとつに目を向け職員間での意見交換、改善への検討が行われことで何よりの学びになり全職員が自身の保育と向き合い振り返ることができました。

お忙しい中、家族アンケートに答えて下さいました保護者の皆さまに感謝するとともに 評価結果をこれからの励みと課題として、さらなるサービスの向上に努めていきたいと思えます。

また、評価機関の方より、たくさんの助言や気づきをいただきましたことは、次年度からの課題を持つことができ大変感謝しております。ありがとうございました。

今後も、スターチャイルドの「子どもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践する」理念のもと地域に開かれた笑顔溢れる園を展開してまいります。

スターチャイルド《金沢文庫ナーサリー》 施設長 蒲谷 ひろみ

福祉サービス第三者評価 評価機関

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 17 番地 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

URL : www.yresearch-center.jp/ E-mail : top@yresearch-center.jp



かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

川崎市福祉サービス第三者評価認証機関 第 14 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構15-232

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02
